

## 四谷の

# 千枚田だより



第 271 号

## 社員研修の受け入れ

四月三日、恒例となった横浜、ゴム新城工場の新人・幹部研修を実施した。同社の本年度新規採用は八名と千数百名を抱える会社としては小人数であるが、それだけ安定した会社であることが伺われる。

研修には、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課 五名、新城市役所関係 七名 保存会 二名が新人社員を歓迎した。

会長は、冒頭に横浜、ゴム新城工場の研修は平成十八年から始まり、もう二〇回目。この研修がきっかけで工場敷地内に広葉樹を植栽、二酸化炭素削減に貢献、この活動が波及して環境保全活動に取り組み、東日本大震災地の防潮林や愛知万博「海上の森」、ジブリパークなどの植栽貢献等々：私の常日頃からの理念「企業は地域に貢献、環境に配慮するのは当然の義務だ：」の謳い文句を実践していただいているし、会社ぐるみのエコ活動は他企業の模範として大きく評価されている。

## 下江新城市長からの歓迎挨拶

日頃は、社員研修も含めて四谷の千枚田に何かとお気遣い頂きありがとうございます。特に生物多様性の保全管理とか環境整備活動、また

産官民に呼びかけた外来植物の駆除作戦は横浜ゴムさん主導で行っていたり、

ど多大なる協力をお願いしております。本日は天候にも恵まれ、絶好な研修日和となりました。これから小山会長の引率で四谷の千枚田を体感していただきます。入社してから間もない研修の場所に四谷の千枚田の思い出は、この雄大な景観と共に皆さんの心の中にずっと残ることと思います。そして、何よりもこの千枚田を築き上げた先人、これを継承し続けている保存会の皆さん、そして地域の皆様方の郷土愛から成り立っています。：もう、どれもこれも全て掛け替えのない大切な宝でございます。そんなことを今から会長の説明があると、思います。どうか皆さんにも共有していただき、有意義な研修をご期待申し上げます。

これから社会人としての皆さんに：今朝、私は新城市新規職員研修にて「日々積極思考で仕事に望むこと、常に明るく前向きに希望を持ち続けて素直の心でいること、そして当然社会に出たら大変なこともあります。こんな時も否定的にならなく、積極思考で日々の仕事に励んでください。そして何よりも皆さんの健康が第一です。そのためには、仕事と休みのスイッチのオンオフの切り替えも上手にしてください。

て職場の仕事も日々の暮らしも楽しみながら続けて下さい」と話をしました。今お話ししたことが本日の新人社員の皆さんにご理解いただければ幸いです。最後になりますが、本日、幹部社員の皆様と新人社員の皆様との交流を通し、実のある研修になるとともに、横浜ゴムさんの益々のご発展を願いまして簡単ではありますが本日のご挨拶とさせていただきます。



## 交流会

保存会松下会計の軽快なテンポで交流会が催された。初めに愛知県新城設楽農林水産事務所 近藤建設課長から農道・ふれあい広場などの

施設整備に携わっている。また、「ふるさと指導員」の活動支援を行っている。等々の挨拶に続いて新人社員は恒例の「お立ち台」に上り、それぞれの出身地、将来の夢(希望)などを語った。新人はほぼ市内在住で三ヶ日、豊川と近隣者で占めていた。夢は「家を建てたい 二名。(五千万円程度)。早く結婚したい(尻にひかれてもいい) 二名 車を買いたい(ジムニーから大きな国産車、外車)。てっぺんを目指す等々。幹部社員は「一人で悩まず、相談できる友達を作れ、同期を大切に」と、長年の経験から論じた。平野副工場長は、この研修会に愛知県新城設楽農林水産事務所建設課及び新城市、保存会など多くの方々にご参加・ご協力をいただいたことをお礼の挨拶に交流会は無事終了、最後に全員が「千枚田ありがとうございますました」と大声：千枚田に木霊した。



## 令和の大渇水

昨年夏以来、記録的な少雨により豊川用水などで「三十年に一度」の深刻な渇水が発生。ダム貯水率の大幅低下により取水制限、市民生活や産業に大きな影響が出た。

愛知県は三月二十四日、平成十七年以来二十一年ぶりに豊川用水渇水対策本部を設置。水源の一つである宇連ダムが三月十七日に貯水率0割に達し、ダムの水が空っぽになつてしまった。

対策本部は、矢作川水系の災害事故用の緊急連絡管「幸田蒲郡線」から三月二十八日、渇水では初めての導水を開始。また、四十一年ぶりに佐久間ダムからの期間外導水を静岡県に要望するなど最大限の対策を講じた。

三月三十一日、宇連ダム周辺に百七ミリの恵みの雨が、以降、続けて降雨、四月九日午前九時時点では貯水率が34・1割になつたが、回復までには至つてない。

昨年四月半ばまで、まったく雨が降らなく、このままだと「水騒動」だ！困ったもんだ！と思つていた矢先の代掻き寸前に恵みの雨が降つてくれた。こんな嬉しいことはなかったし、ホツともした。

宇連ダムは私たちの住む隣 鞍掛山―仏坂峠―宇連山―棚山―鳳来寺山と繋がるにあたり、子供の頃は炭や薪を背負いに行かされた思い出がある。

## 知っ得

### 豊川用水

第二次世界大戦により、国土は荒廃し著しい食糧不足にあい食糧増産の気運は高まった。農林省はこうした情勢から、直轄国営事業として豊川農業水利事業を開設し、昭和二十七年十一月二十二日、鳳来町の宇連川の谷に宇連ダムの定礎式を行ない、宇連ダム建設にとりかかった。宇連ダムの貯水量は、約二千八百万m<sup>3</sup>で鳳来湖とも呼ばれ、昭和三十六年、事業は豊川用水公団に引き継がれた。

この事業には流域変更という画期的な工事があつた。それは、大入川の水を大千瀬川の支流に放流し、この水と大千瀬川の水とを合わせて約六kmのトンネルを通して、鳳来湖に貯水されるもので、これによつて天竜川水系の水は、年間約五千四百万m<sup>3</sup>豊川の谷に流されるのである。また、佐久間ダムの水を導水して宇連川に放流するため、約十三kmのトンネルと三つの水路橋が設けられた。

宇連川下流に設けられた大野頭首工は、宇連ダムの水と佐久間導水路からの放流水を受けて、導水路に導くのでその延長は約六kmである。奥三河山岳地帯を水源とする水と佐久間ダムの水とは、新城市内で豊川をはさんで東西に分かれ、豊川下流から渥美半島方面に至る広い範囲の農業用水・工業用水に用いられて、東三河の農業はもろろん工業発展の基礎となつている。

## 五平餅

五平餅は鳳来寺のもみじ祭りを舞台に、シテを務めるものと言つても言いすぎではあるまい。髭をはやしたいかめしい紳士も口紅を塗つたお嬢さんも、真剣な面持ちの坊やも、夫々口元を味噌だらけにしなから、無礼講よろしく噛みつけるのも、五平餅ならでの風景である。見る方も見られる方も共に笑顔、五平餅は誠に不思議な魅力を持つている。五平餅の発祥は、素朴な信仰から始まつたと言われる。昔から農民の山の神に対する信仰は根強いものがあつた。山の神は春になると、山から里に下つて来て五穀豊穡の守護神となり、秋の収穫が終わると再び山へ戻つて行く。その際、五穀中最上の米を献じて神を祀ることは当然の儀礼であつた。又、山で働くものも山仕事にかかるに先立つて山の神をまつり、二月と十月には、山の講と言つて必ず五平餅を作つてお祭りをしている。形そのものが神前の御幣に似ていて、杉の木の串に白米をよく炊いてよく練つたものを、両手で平たく楕円形におしつける。神前にはその白いままで献じ、人間が食べる時には砂糖を入れた味噌をすり潰し、やわらかく煮てたつぷりかけ、炉火でよくあぶるのである。風味は上々で、庶民の信仰と切つてもきれない五平餅は今や当町の味覚の最たるものとなつている。

鳳来町観光協会 昭和五十一年三月発行  
美しい自然と歴史の町 鳳来 より転記

## 中山間地直接支払制度

### 四谷集落協定総会

四月四日、連谷会館を会場に令和七年度 中山間直接支払制度四谷集落協定総会が開催された。総会には構成員二十四名全員参加で執り行われ、村雲代表の経過挨拶に続き、今年度の交付金配布が行われた。

### 四谷の千枚田進捗状況

巷ではイスラエルとアメリカ合衆国によるイラン攻撃が激化、その影響で燃料や石油製品などに打撃。また、令和の大渇水で四苦八苦でも、棚田の百姓は兎にも角にもセツセと農作業に勤しんでおり、うれしい限りである。

田植えは五月初旬に始まり、また、棚田が賑わう。



行 令和八年四月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二